

香港株式市場フラッシュ

高配当利回り中国銀行株～CIPS拡大とG-SIBsに注目

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhito.sasaki@phillip.co.jp

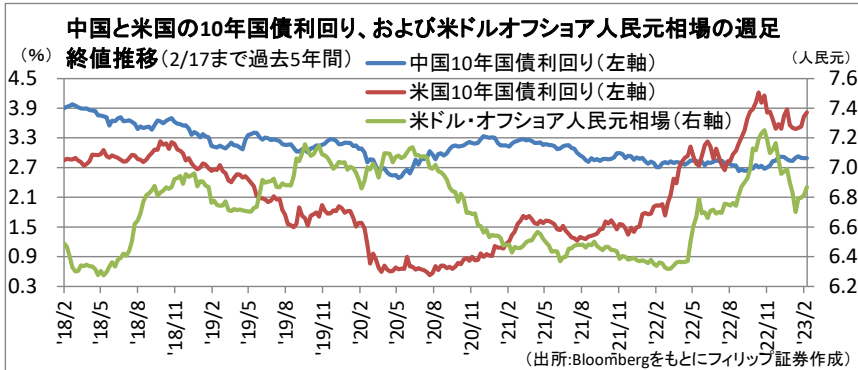
フィリップ証券株式会社

2023年2月22日号(2月22日作成)

“中国の国際決済ネットワーク「CIPS」と中国国債”

ロシアのウクライナ侵攻に対して欧米や日本は経済制裁としてロシアの金融機関を国際的な決済ネットワークである「SWIFT」から締め出している。こうした中、ロシアに加えて欧米の制裁を警戒する国々を中心に、中国が人民元の国際化に向けて拡大を目指す独自の決済ネットワークである「CIPS」の利用が増えている。ロシアが今まで欧州に売っていた石油を中国に売ることになったこともCIPS利用拡大の背景にあるとみられる。ただ、CIPSは決済通貨が主に人民元であることや、送金情報の伝達手段がSWIFTに依存している部分が多いこと、および人民元に係る資本取引規制が多いことからCIPSがSWIFTの代替手段となることは容易ではないという見方が大半だ。

それでも、決済の頻度増および金額拡大が進めば、人民元を国際間の決済で使う上で中国国債を買い付ける場面が増え、政府が保有する外貨準備における人民元の比率も増えることが考えられ、人民元の買い材料となり得よう。中国国債は米国債と比べて利回り変動性が小さい点も決済準備・外貨準備の点では魅力だ。



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全95銘柄)における終値の2022年末来騰落率

前回基準日: 20230207 基準日: 20230221

順位	2022年末来騰落率・上位10銘柄 (%)	前回順位
1	中国聯通 [チャイナ・ユニコム]	27.5 16
2	理想汽車	25.3 3
3	中国宏橋集団 [チャイナ・ホンチャオ・グループ]	24.8 13
4	百度 [バイドゥ]	23.6 1
5	China Literature Ltd (聞文集団)	20.1 2
6	HSBCホールディングス	18.6 12
7	比亞迪 [BYD]	18.3 5
8	網易 [ネットイース]	17.7 6
9	中国石油天然気 [ペトロチャイナ]	17.4 14
10	信義玻璃控股 [信義ガラス]	16.6 28

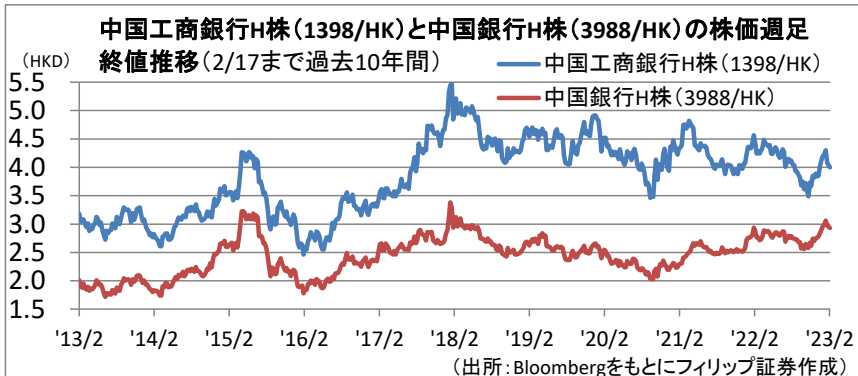
順位	2022年末来騰落率・下位10銘柄 (%)	前回順位
95	Meituan (美团)	-20.0 90
94	JD Health International Inc (京東健康)	-20.0 95
93	Kuaishou Technology (快手)	-19.8 89
92	Ming Yuan Cloud Group Holdin (明源雲)	-17.2 76
91	CG SERVICES (碧桂園服務)	-14.4 92
90	Haidilao International Holdi (海底撈)	-14.3 94
89	JDドットコム	-13.9 68
88	阿里健康信息技术 [アリババヘルス・インフォメーション・テクノロジー]	-11.9 87
87	東方海外国際 [オリエン・オーバースイス]	-10.7 82
86	恒安国際集団 [ハンアン・インターナショナル・G]	-10.5 93

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

“高配当利回りの中国銀行株の中でも「G-SIBs」がポイント”

国際的な資金決済において重要な役割を果たすのは金融機関である。金融安定理事会(FSB)が世界的な金融システムの安定に欠かせないと認定した銀行である「グローバルなシステム上重要な銀行(G-SIBs)」の中で、追加的自己資本のバッファを求められる度合いによるランクで中国工商銀行(1398/HK)と中国銀行(3988/HK)の2行が中国の銀行の中で上から4番目のBucket2に選ばれている。同ランクの金融機関は日本では三菱UFJフィナンシャルGの1行だけだ。中国工商銀行は中国最大の国営商業銀行であり、海外事業の拡大にも積極的だ。これに対し中国銀行は総資産で国内4位の規模ながら、長らく外国為替専門銀行として役割を担い、外為業務に強みを有する。貿易決済業務では国内最大手であり、人民元の国際決済ネットワーク活性化のためには重要な位置付けの銀行になるものと見込まれる。

2/20終値での予想配当利回りは、中国工商銀行が8.52%、中国銀行が8.77%。1株当たり年間配当金は、中国工商銀行が2015年の0.23元から連続増配中で22年市場予想が0.31元、中国銀行が2018年の0.18元から連続増配中で22年市場予想が0.23元である。中国の銀行株の銘柄選択では「G-SIBs」が重要なポイントとなろう。



【2023年2月中国主要経済指標】

- 2月10日(木)
 - ・1月消費者物価指数(CPI)<前年同月比>: +1.8%、結果+2.1%
 - ・1月生産者物価指数(PPI)<前年同月比>: ▲0.7%、結果▲0.8%
 - ・1月資金調達総額: 前回1.310兆元、結果5.980兆元
 - ・1月新規人民元建て融資: 前回1.400兆元、結果4.900兆元
 - ・1月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+11.8%、結果+12.6%
- 2月16日(月)
 - ・1月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.25%、結果±0.00%
- 2月20日(月)
 - ・1年ローン・プライムレート: 前回3.65%、結果3.65%
 - ・5年ローン・プライムレート: 前回4.30%、結果4.30%
- 3月1日(水)
 - ・1月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.1
 - ・1月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回54.4
 - ・1月(財新)製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.2
- 3月3日(金)
 - ・1月(財新)サービス部門PMI: 前回52.9
- 3月7日(火)
 - ・1月外貨準備高: 前回3.184兆USD
 - ・12月貿易収支: 前回+780.1億USD
 - ・12月輸出<前年同月比>: 前回▲9.9%
 - ・12月輸入<前年同月比>: 前回▲7.5%

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

- ・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。